

琉球大学学術リポジトリ

沖縄における産学官連携が抱える問題構造の解明

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 真武, 信一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016762

沖縄における産学官連携が抱える問題構造の解明

氏名：○真武信一

所属：沖縄県企画部科学技術振興課

1. はじめに

沖縄振興計画（2002）に、以下の記述がある。

「科学技術は、21世紀の沖縄の社会経済を進展させる大きな原動力となるものである。科学技術から得られる知的資産の集積は、新たな技術革新を促進し、新産業の創出や既存産業の高度化及び市場競争力の向上に寄与するとともに、医療・福祉、環境、食料・エネルギー問題の解決など、県民の生活全般にわたる質の向上につながる。」

その目的を達成する手段のひとつが「産学官連携」だと考える。沖縄においても各種施策・支援事業の実施により、産学官連携活動に着実な進展が見られる一方、検討すべき課題もあきらかになっている。今回の調査は、DEMATEL 法という構造モデル手法を用い、沖縄の産学官連携が抱える問題構造の解明を行うことを目的に実施した。

2. 調査の方法

(1) 問題項目の抽出

指摘されている問題点として、株式会社沖縄 TL0 の協力を得て 20 項目を抽出した。

(2) アンケート調査

抽出した個々の問題項目について「実際にこのことが問題になっているか」を尋ね、問題であると答えた場合「どの程度問題なのか」を尋ねることによって、その問題項目の重要度評価を「極めて重要・重要・やや重要」の3段階で行った。次に、問題構造を把握するために、問題であると評価された項目について、各問題項目との間の直接的影響関係の強さを重要度評価と同様「強・中・弱」の3段階で尋ねた。

アンケートの概要は以下のとおり。

○調査年月日 2009.1.21～2.2

○郵送による発送・回収

○調査対象者 沖縄県内産学官連携関係者

県（行政、公設試）・大学・TL0

コーディネート機関・金融機関

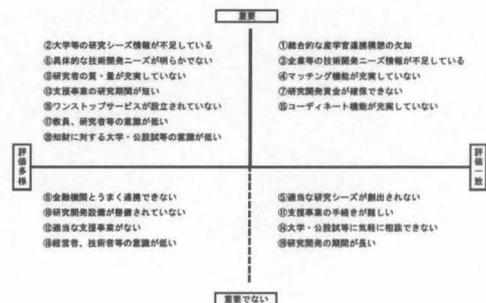
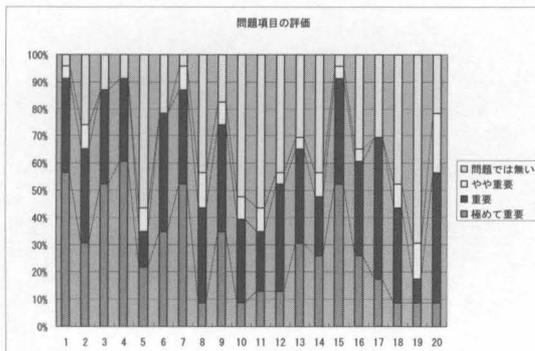
○調査対象人数 25 人

○回収 23 人（回収率 92%）

3. 調査結果

(1) 問題項目の分類

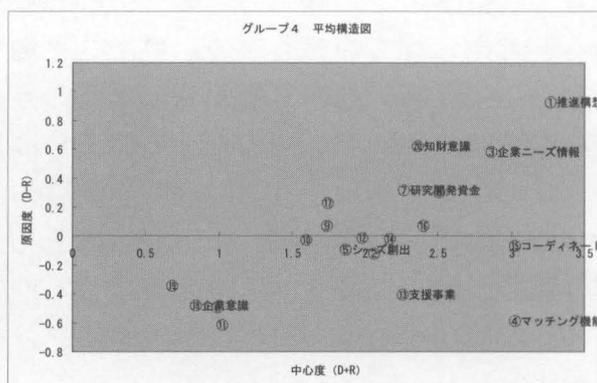
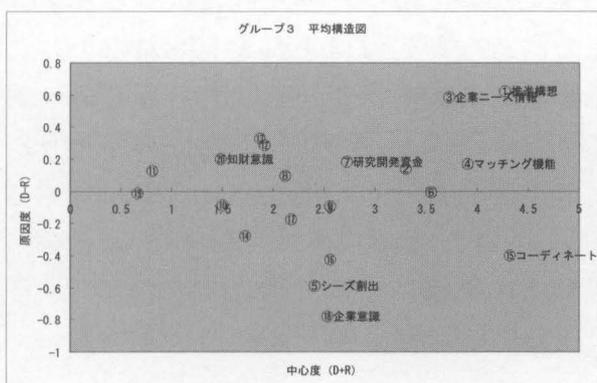
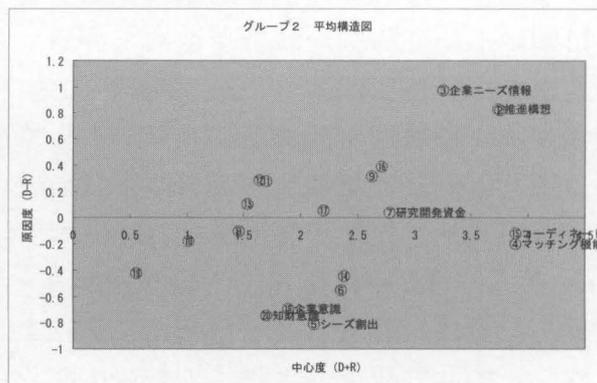
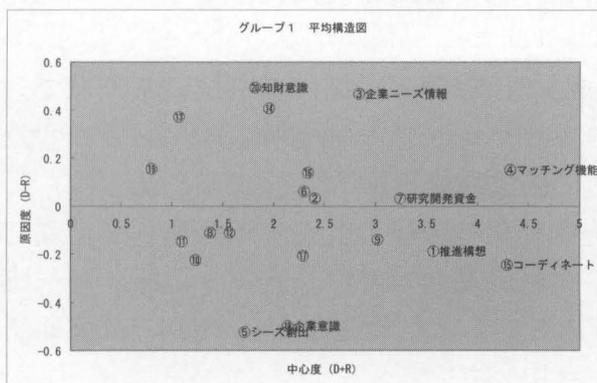
回答者の重要性評価結果を用いてクラスタ分析を行った。問題項目は「重要・評価が一致」「重要・評価は分かれる」「重要でない・評価が一致」「重要でない・評価は分かれる」の4グループに分類できた。



(2) 回答者の分類

DEMATEL 法に基づく総合影響行列を用いてクラスタ分析を行い、回答者を4グループに分類することができた。全てのグループで共通して特徴的なことは、問題項目の分類において、「重要・評価が一致」となる項目については項目間の関連性の程度を表す中心度 (D+R) が高かった。

しかしながら、各項目の原因となっているのか、結果となっているのかを表す原因度 (D-R) を見ると、総合的な推進構想の欠如が原因だと考える「ビジョン重視型」に対する企業の技術開発ニーズ情報の不足が原因だと考える「現場重視型」、マッチング機能の充実が必要と考える「スキーム重視型」に対するコーディネータの不足が原因だと考える「人材重視型」の二軸として整理することができた。



4 まとめ

○問題項目が4グループに分類できた

「重要・重要でない」「一致・不一致」

○回答者が4グループに分類できた

ただし、「問題の重要度」と「全体構造の認識」は異なる

回答者の属性とグループ分類に相関無し

○問題構造からみた原因となる項目

産学官連携の推進エンジン → 「ビジョン重視型」と「現場重視型」

コーディネータ → 「スキーム重視型」と「人材重視型」

○「問題の重要度」は「中心度：関連性の強さ」として評価している